
ミッシェル吉田さん

晴英

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミッシェル吉田さん

【Nコード】

N0551J

【作者名】

晴英

【あらすじ】

タイトルも中味もまったくナンセンスな独り言の寄せ集め。
たまに掘り出し物があるかもね。
見つかったらラッキー

そんな感じで書いてる詩です。

ヨル

やっぱりヨルがいい
誰も歩いてない町がいい
暗くて明るい街灯が
落とす影が貴方なら尚更

迎えにきてくれたあと
錆びついたブレーキが
悲鳴を上げてあたしを呼ぶ
こんな夜中に非常識？
いや、いい時間、
貴方に会うのはやっぱりヨルがいい

世界が布団に入った頃
バカやって笑うのは誰か
間違いなくこの3人で、

だれにも知られないヨルがある
この町のヨルは僕らのもの
今日はどこまでいこうか？
いとしいヨルは短すぎる
もっとほしいものはあるけれど

そのどれも、今はいらない

図書館のわき道に

もうふたり仲間がいたりする、
非常識にもピンポンならす貴方

「雨なんだ中入れてくれよ」
勝手に家に上がりこむけど、
あたしの傘に入ればいいのに。

「もう一人は新橋だつて」
ひとしきり文句を言つて
さあ、ヨルに遊びにいこう。

世界が眠り込んだ頃
バカやって笑うのは誰か
間違いない。この5人しか
いないだろう？

やっぱりヨルが好きなんだ
暗いから化粧も意味がないだろ
だからそのままでもいい
あの頃と変わらずいられる

誰も知らないままがいいんだ
このさびれた歓楽街のヨルは

今や僕らのものでしかない。

泣きながら手つなぐ日がきても
側にいれる内は離さないでいて
御託並べも結構だけど
そのどれも今は欲しくない

この手が在れば
ずっとヨルが好きだから
つまるところ

この町のヨルは
この上ないものだ
と
自慢したいだけ、です。

キミ

本当のことをいえば
彼女にふられた僕にとって
もの足りなくなつたところを
埋めてくれる女の子

あつたかい手のひらと
無償の愛と笑顔と
ときどき甘えるように
僕を頼りにしてると言う

万年床のような布団にもぐり込むとき
突然幸せを語り始めたキミに触れようとして
無意識にひっこめた左手が
なんとも情けなくなつた

まるで白昼夢
どこかでみたことあるようなユメ
つかの間のはずが
いつの間にか夜がきて
一緒に夢を見ようとしてる
キミ、俺
裸足のまま月のしたで

踊る、踊る…

少ないボキャブラリーだとか

浅知恵の産物の花束とか

俺の悪あがきをひとつずつ拾い上げて
柔らかいキスをくれる

大したものもやれない

欲しい言葉もやれない

情けない俺の肩に

また身体を預けてさ

キミがありがとって言う度に

考えることはおるか俺は

息もできなくなるんだから

まるで白昼夢

消えそうで消えない泡沫

つかの間の恋は

案外俺には心地よくて

期限が来ても手放せずにいる

まだいてくれるかい？

されど白昼夢

かっこつけるのはもう飽きたさ
埋めた穴が引き離すなら

いつそ壊してくれてかまわない

君がいなけりや

息も詰まるような俺だからさ

.

いつも言ってるけど

貴方の手がある限りはあたし

水、食物無しで生きていけます

というか、

貴方の手が消えたらあたし

息が止まるんです

多分、多分、多分…

なんて想いつて重いつて

よく知ってます！

だからなおさら

会いたいつてイタイつて

そんなこと、言わないで

なにを放ん投げたら

すきでいていいんですか

貴方を困らせたいなんて

厄介な子じゃありません

ただ堂々と

そこに立つて

見つめ合っちゃって

貴方の手に触りたい、だ、け

近すぎたのがいけないんですか
もう少し遠くならいいんですか
あたしの大事なその手で
可愛い人の手をとるんですか

なにを捨ててくれば

よかったですか

あたしを見るとは言えませんか

でももつと、

可愛い人なんて、見ないで！

どうすればいいのかなんて

堂々巡り、無理問答

今のあたしには

やさしい貴方は手に負えません

だからいつかあたしがもつと

大人になって

この答えがでたら

バカだろって笑って

あたしの手をとって、ね

僕とジュリア

涙枯れて消えた

僕はまだ

乾いたハンカチをぶらさげて立ち尽くしてる

赤い目で僕をみて

また泣き出した

弱くて脆くて壊れそうなきみが

笑う日はくるのかなって

涙忘れられるのかなって

僕らにくる明日は

今日よりずっといいものなのかなって
思うんだ。

涙枯れた

きみの指が僕の指に絡まったら

あるいてあるいていこっか

風のない道が

僕を揺すった

このままきみとあるいていってもいいのかなって
いまさらひとりで生きていけるなんていえないよ

わかってるって
大丈夫だよって
わたしもだよって言って、

右手に左手

分け合って魔法

一緒に行けたらいいって
くるしいほど絡まって

覚悟と愛

飲み干して魔法

言いそびれたことは
もういないや。

今がしあわせなら

涙はいらない

くずれていくきみが

好きで、好きで、

眠る前にちよつとだけこぼれた涙。

真夏日少年

「ペダルをこぐのも面倒くさい」って
坂道よけながら

自転車を押して歩くあなたの後を
アイス片手について回る

あたしの姿は滑稽ですか？

話しかけても

「うん」か「やー？」しか返さないあなたの背中が
あたしにはどんな素敵なアイスより魅力的なんです。

日焼け止め塗り忘れた肌がじりじり焼けてく
後悔時すでに遅し！

今年こそその美白の夢は
ぼろぼろ崩れていきました。

「好きな男の子ができました！」
って大事な報告ちゃんときいてました？

ニルバーナも素敵だけど友達の話はちゃんと聴こうね！
わざとらしく

「あー」か「えー」しか返さないあなたのひっくりがえった声があんまり愛おしくて
しかたなくなっちゃって

さてどうしようねシャイボーイ

あの人と誰かが喋ってるだけで涙がでそうなシャイガール

そんなあたしを後ろに乗せて、

キラйнаペダル踏んで

どこまでいくのよ！

仲良しこよしのお二人さんの横通り抜けて

それでも止まらないシャイボーイ

ねえもう止まらないで。

「いい気味だろ？」

ほんとにね！

言いそびれた言葉が向かい風にさらわれてく

反省時すでに遅し！

でも後悔しません

ねえ、アイス買っていこうよ

.

レム睡眠

随分泣いたな
疲れただろう？

まだ足りないかもしれないけど
明日もどうせまた
泣かなきゃいけないんだから
今日はもうやめておけよ

赤い涙こぼれて
透明で押し流して
すくい上げたら真っ白で

またまた繰り返して

今日に疲れて
明日に呆れて
昨日を羨むぐらいなら
もう、寝よう

目を閉じて
どこでもいいよ
なんでもいいよ

夢は僕らを

裏切らないから

月までのぼって

星を掴もうか

波に寝そべって

海を漂おうか

それでもまだ涙がでるなら

二度と醒めない夢で生きよう

.

バイバイ

嵐が過ぎるみたいに

東の空から台風が抜けたから

夏風が吹くかどうかは僕次第だけど

とりあえずバイバイ

凡人が凡人の言葉にしがみついて

負け犬が負け犬のしっぽに齒をたてて

なんの生産性もない生活には飽き飽きしました

イブに生まれた限りはあたしだって

アダムを見つけてそれなりにうまくやっていきます

キャベツが何枚脱いだってレタスになれないように

諦めるべきオルタナティブは

息継ぎする間も与えてくれない

右手に掴んだ砂を

左手に移すみたいに

ひと粒でも残ってくればいい

だいじなことは箱に詰めて

鍵は捨てておいでよ。

他人の言葉を借りてまで
残す思いもありませんでしょ
所詮凡人にはこんな思いは理解できませんよ
来年の今頃あたしは
今のあたしにバカにされて
それでもしあわせだつて
ふやけた顔でわらうんだ

嵐が過ぎたつていうけど
東の空に台風なんて来てなかったよ
夏の湿気た空気を
扇風機でかき混ぜて、バイバイ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0551j/>

ミッシェル吉田さん

2010年10月9日04時19分発行